研究題目

小学生が調べ，広げ，繋ぎ，守る　満蒙開拓の記憶

― ウクライナ侵攻と満州開拓慰霊碑からの学びをPCでデータ作成・プレゼンで発信 ―

目　　次

Ⅰ　研究の主旨，対象者

■１　研究の主旨

■２　棚田百選の田植え帰りに見つけた満州開拓慰霊碑

■３　満蒙開拓と児童が生きる飯田市千代にとっての満州移民

Ⅱ　研究の内容，方法

■１　満州移民と重なるウクライナ国民の姿から得た戦争への当事者感

■２　阿智村の満蒙開拓平和記念館で戦争の真実を知りたい

■３　なぜ満州に？国策に騙されて満州に移民したのでは？という疑問

■４　満蒙開拓体験者・近藤丑男さんの想いと担任の迷い

■５　満蒙開拓平和記念館見学で知った加害者としての満州開拓者の想いから学ぶ

■６　４か月間も精神を費やした満州開拓慰霊芳名碑のデータベース作り

Ⅲ　具体的な指導とポイント

■１　満蒙開拓史と慰霊碑データベースを伝える活動への展開

■２　飯田市歴史研究所による満州開拓慰霊碑データベースの歴史資料正式認定

■３　満蒙記念館長の力を借り新聞やTVによる県内・全国への発信で念願達成

Ⅳ　研究・実践の成果

■１　もう一人の体験者との対話と児童総会・５年生との研究交歓会で後輩への引継ぎ

■２　６年生の満州開拓慰霊碑との関わりが後輩と PTA・地域を動かした

Ⅴ　今後の課題，その他

■１　地域の歴史遺産を調べ，戦争と平和の歴史を追究して得た主権者としての成長

長野県高森町立高森南小学校　　教諭　坂下　力

Ⅰ　研究の主旨，対象者

■1　研究の主旨　学校行事の帰りに見つけた満州開拓慰霊碑と社会科歴史学習やロシアによるウクライナ侵攻を調べる過程で戦争を身近に感じた６年生が，慰霊碑に刻まれた犠牲者データベースを作成し，市立歴史研究所や満蒙開拓平和記念館の支援と新聞各社・TV各局の協力を受けてそれらを広く発信するとともに，慰霊碑からの学びや維持・管理活動を後輩に伝承する取り組みを通して，自らが地域に誇りを持ちながら平和を願い，社会をも動かしていく可能性を見出す。

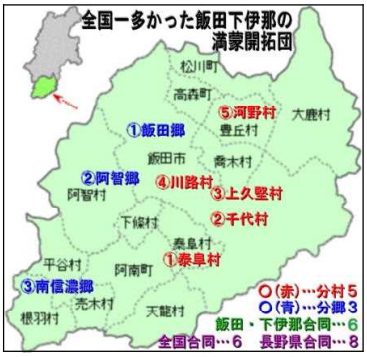
■2　棚田百選の田植え帰りに見つけた満州開拓慰霊碑

自分は再任用1･2年目を，飯田市立千代小学校に2022年度まで２年間赴任した。４人の５年生担任となり，６年生へと持ち上げた。山間地で数多く流れる沢が浸食して造った傾斜地の多い旧千代村＝千代小・千栄（ちはえ）小学校区の中でも，本校は標高688mの高台にある。峰続きにチョガニや貝の化石が採れた米川峠がある。中腹の廣籏八幡（ひろはたはちまん）神社が校門の東，徒歩５分の200mに位置している（**㊤地図**）。

５月20日の全校行事，棚田百選「よこね田んぼ」田植えの帰り道，担任と６年生４人が立ち止まり，この神社の石鳥居の下で柏手を打った。「この神社でいつも拝むけれど，何があるの？」との声で，石段を上って寄り道をしてみた。すると，「満州開拓慰霊碑」とその右隣におびただしい数の名前が彫られた銅製プレートがはめられている碑の石碑２基（**㊤写真**）を見つけた。「たくさんの名前は，戦争で亡くなった人だろう」と直感しゾクッとしたと，子どもたちは後に語った。

■3　満蒙開拓と児童が生きる飯田市千代にとっての満州移民

満蒙開拓団とは，1931年の満州事変以降，1945年の敗戦までの期間に日本政府の国策によって推進された，傀儡国家である満州国に入植した日本人農業移民である。1932年から大陸政策の要として，昭和恐慌下の農村更生策の一つとして遂行され，満州国建国直後から1945年敗戦まで14年間に，約1,000団27万人が日本各地から満州国などに開拓民として移住。新規開拓地の他，農民の土地を取り上げ同然の安価で日本政府が作った公社が入手し，現地住民の反発を招いた。ソ連の日ソ不可侵条約破棄を想定し，対ソ国境に配置する意味合いもあった。満州に渡ったのは政府関係者や港湾・鉄道労働者，商社関係者も多く，開拓民も含め終戦当時約155万人に達した。長野県からの満蒙開拓移民は約33,000人と全国ダントツ１位で，12%を占めた。また，満蒙開拓青少年義勇軍（義勇隊）は約7,000人，全国約10万人の7%で１位。満蒙開拓青少年義勇軍とは，14歳から18歳で構成し開拓農民を兼ねたソ連国境警備少年兵とし，2･3か月間の国内訓練後に送出する制度。県内には，12歳で茨城県の内原訓練所（現水戸市）へ送られた記録もある。



長野県の飯田・下伊那地方（以下飯伊）は，各種開拓団民が8,400人(対県比25%で県下最多)と，1,100人の青少年義勇隊員(同16%で最多）を送出した。

満蒙開拓団の募集形態は，国設の全国合同・長野県合同・郡市合同・近隣市町村合同・市町村単位に分類される。近隣自治体合同は「分郷」と呼ばれ，映画「望郷の鐘～満蒙開拓団の落日」の阿智郷など，飯伊には３分郷（**㊧自作地図**）。村単位の「分村」は，県下で12か村。飯伊では送出順に，泰阜（やすおか）村，旧千代村・旧上久堅（かみひさかた）村・旧川路村の現飯田市３村，河野（かわの）村（現豊丘村）の５か村。村人口の11％の500人余を送出，その約半数の240人余が犠牲となった窪丹崗（ワアタンガン）千代分村は，その１つ。窪丹崗千代分村は人命を優先し，最寄りの綏佳（スイ

カ）線香蘭駅から避難と早々に決断。ソ連兵や現地の人から襲撃に遭う「死の逃避行」や集団自決は無かった。しかし，幼児や女性など多くの命が旧ソ連占領下のハルピン市内の収容所での飢えや気管支炎・肺炎，結核や発疹チフスの蔓延で奪われた。多くの男性は，渡満で免除だったはずの根こそぎ兵役動員や，ソ連によるシベリアでの国際法違反の強制労働により，帰らぬ人となった。

Ⅱ　研究の内容，方法

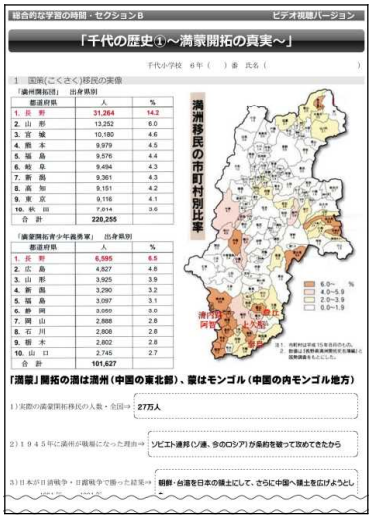
■1　満州移民と重なるウクライナ国民の姿から得た戦争への当事者感

４人は，社会科の日本国憲法と第２次世界大戦の学習，週末課題の新聞スクラップからの考察などで「戦争は過去の話ではなく，現実に今，ウクライナでも起きている。『ロシア兵に追われるウクライナの母子と，当時のソ連＝現ロシアから逃げた満州開拓団の母子が重なって見える』。遠い場所で起きたのでなく，私たちの千代にも戦争があったんだ」と考え，戦争に対する当事者意識みたいなものが芽生えたようだ。

千代からの分村・窪丹崗満蒙開拓団の証言をして下さる方が健在でいらっしゃるという情報を戴けた。２歳の時に一家で渡満し，小学２年となる1946年に母親と旧千代村・山中地区に帰国を果たした近藤丑男（うしお）さんである。満蒙開拓平和記念館や地元の公民館，隣の千栄小学校でも語り部として満蒙開拓の証言をされている。４人は，お話をお聴きしてみたいと，考えていた。

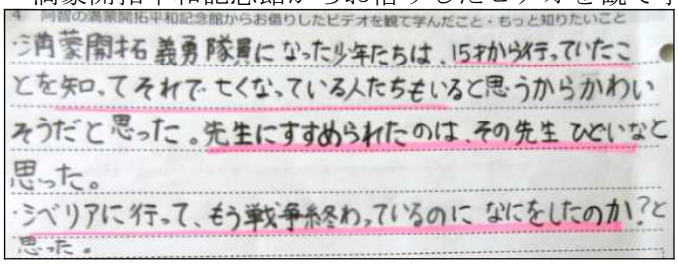
５月31日に改めて神社の慰霊碑に行ってみた（㊨**写真**）。碑文は難解だが「第２次世界大戦中に中国東北部の満州に千代からたくさんの移民が渡り，1945年の敗戦の時多くの犠牲者を出してしまった。その方達のご冥福と平和を祈る…」といった内容だと解った。もう１基には，300人程の犠牲者の名前が銅板に刻まれていた。お馴染みの姓を見つけ「親戚や友達の先祖様かも」と，つぶやきながら教室に帰った。「190人以上も犠牲者がいる中で，生きて帰ってきた人の想いを感じた」「石碑があると言うことは，社会で勉強した千代の満蒙開拓は，本当のことだったんだ」「過去の千代に戦争があったことが分かった」「何があったのか，どうやって生きて帰れたのか，近藤さんに聞いてみたい」などと記述。千代の満蒙開拓を知る手掛かりが，近藤さんと神社の満州開拓慰霊碑の２つあるという認識を持てた。

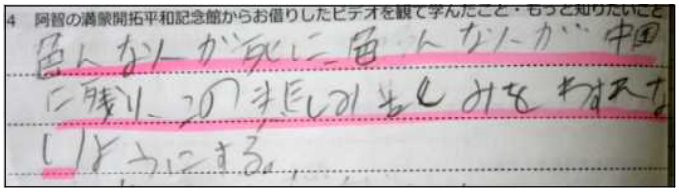
■2　阿智村の満蒙開拓平和記念館で戦争の真実を知りたい



2013年４月にオープンした唯一の満蒙開拓の歴史に特化した阿智村の満蒙開拓平和記念館について，４人に聞いてみた。「先生から話は聞くけれど，行ったことがない」「みんなで行ってみたい」。飯田市教育委員会から平和教育推進事業として満蒙開拓平和記念館，または2022年５月新設の飯田市平和祈念館の入館料と交通費を補助して戴けるという情報を得て４月に申し込みをした。５月６日に満蒙開拓平和記念館で，以前の勤務校で学年PTA会長をしていただいた三沢亜紀事務局長と見学の打ち合わせをし，事前学習DVDをお借りした。

満蒙開拓平和記念館社会見学の事前学習として，そのDVD「満蒙開拓の真実（小学生バージョン）」を視聴した。実は前任の上郷小学校６学年主任をした４学級に，同じものを視せている。その６年生にも難解だった。なので，今回はレジュメ（㊤）を用意した。「満蒙開拓平和記念館からお借りしたビデオを観て学んだことや，もっと知りたいことは何ですか？」の問いに，次のように答えている（下線は担任による）。





最も心に残った話が，「『満蒙開拓青少年義勇軍に行く』と返事するまで３日間，校長室に立たされた」との深谷さんの証言だと言う。開拓団が逃避行の中でどんな亡くなり方をしたのか？　千代村の2/5の人々が，戦闘も無くなぜ亡くなったのか？　旧ソ連が国際ルール違反のシベリア抑留させた強制労働の中身は何か？・・・満蒙開拓平和記念館見学で確かめたいという願い，歴史の真実を知ったのでそれを忘れないでいたいという決意も語られている。

■3　なぜ満州に？国策に騙されて満州に移民したのでは？という疑問

映画「山本慈昭　望郷の鐘　満蒙開拓団の落日」を鑑賞した（㊨**写真**）。学校の先生も勤めていた慈昭和尚が，村長たちに「満州に渡ってくれる先生は，山本先生しかおらんのだに」と，嘆願書を渡されるシーンがあった。４人とも，「絶対に引き受けないだろう」と予想したが，違った。「えーっ何で？」「だって，あと３か月で日本は負けるんでしょ」「今，満州なんか行ったら，絶対ヤバイって！」…子ども達は「もうすぐ敗戦なのに，どうして千代村よりも奥地でソ連国境に近いところに満蒙開拓に行ったの？」という疑問の答えの糸口の一つを見つける。慈昭さんの「戦争は，騙す者と騙される者が揃わなかったら起きなかった」の言葉，戦後の阿智村の掲示板「国を信用するな！　騙したのは誰だ！」の貼り紙…視聴後，「千代の人たちも，国に騙されて満州に渡ったのだろうか？」「なぜ国は，国民を騙したのか知りたい」「今でも，国は私達を騙しているのか？」と，記述している。

■4　満蒙開拓体験者・近藤丑男さんの想いと担任の迷い

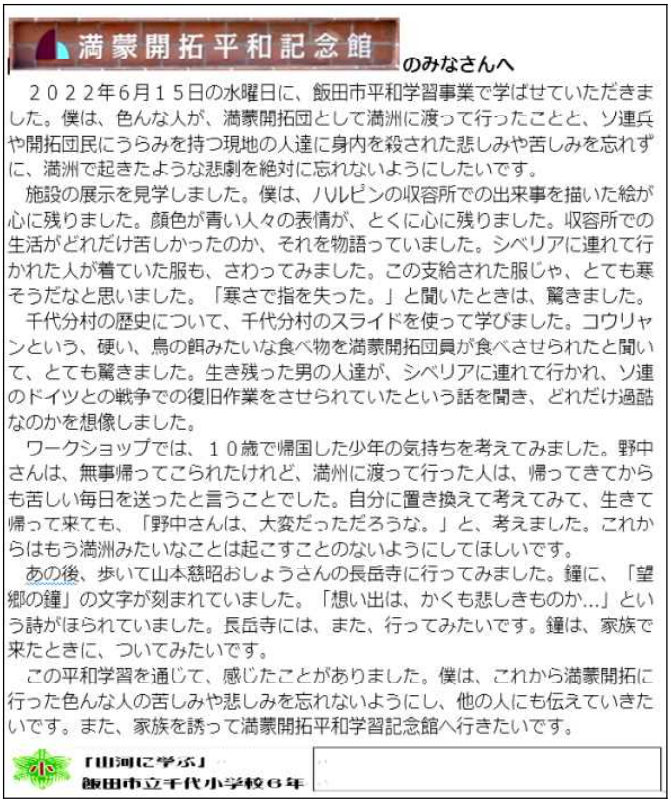
近藤さんから「６月９日に，地区の役員に頼まれて，地元の法山センターで話をすることになったんだに」という情報を得た。講演が終って近藤さんとツーショット写真（㊨）を撮影していたら，参加者の千代小学校にお孫さんが通っているという女性から「是非，地域を知る授業で，近藤さんの話を千代小の子ども達に聴かせてほしい」との提案があった。近藤さんも，すでに84歳でいらっしゃる。今こそが，語り部に直接お話を聴ける最後のチャンスかもしれない。しかし，証言の内容を理解できるのは歴史学習をしている６年生以上，しかも満蒙開拓に特化した学びをしていないと無理がある。数年前，近藤さんの講演会を開いた千栄小学校では，あまりに生々しい証言に聴いていた児童がたまらなくなり，講演を中断せざるを得なかったと言う。これには，近藤さんご自身も深く傷ついてしまった…と，満蒙開拓平和記念館の三沢事務局長からも話を聞いていた。ICレコーダーに記録して自分が解説をしながら聴かせたいと考えていたため，即答はできなかった。

近藤さんからは，金属クリーナー（㊧**写真**）を託された。満蒙開拓慰霊碑横の戦没者芳名プレートの銅板を磨くものだそうだ。千代でただ一人の生き残りとなった近藤さんが，５月１日の追悼記念日にお一人で磨いてきたのだと言う。三沢事務局長からは，全国各地に慰霊碑などが建立されているが，どこも管理や清掃する後継者がいなくて困っている。さらに，千代自治振興センターからは「小学校が近いので，管理の担い手となってもらえると助かる」とのお話もあった。

■5　満蒙開拓平和記念館見学で知った加害者としての満州開拓者の想いから学ぶ

６月15日(水)。「行ってきます！」の挨拶をし，担任を含めた５人が17人乗りのバスに乗車。現地で三沢事務局長自ら説明をして下さった。施設見学による満蒙開拓の原因と経過の理解→窪丹崗・千代分村の実態→残留孤児・婦人の証言ビデオ→ワークショップ「一人で帰国した少年の心情を考えてみよう」と進んだ。４人は，満蒙開拓は現地住民からすれば侵略者なのだと知り，驚いた。山本慈昭和尚の長岳寺にも寄った。「望郷の鐘」に触れてみた。鳴らしてもよい旨の表示があったが，お留守だったので撞いてみるのは家族と再来した時の楽しみということに。次ページは，翌日にタイピングした平和記念館へのお手紙の一部である。

満蒙開拓平和記念館への社会見学翌週の月曜日６月20日午後，廣籏八幡神社の満州開拓慰霊碑まわりの掃



満蒙開拓平和記念館のみなさんへ

２０２２年６月１５日の水曜日に、飯田市平和学習事業で学ばせていただきました。僕は、色んな人が、満蒙開拓団として満洲に渡って行ったことと、ソ連兵や開拓団民にうらみを持つ現地の人達に身内を殺された悲しみや苦しみを忘れずに、満洲で起きたような悲劇を絶対に忘れないようにしたいです。

施設の展示を見学しました。僕は、ハルピンの収容所での出来事を描いた絵が心に残りました。顔色が青い人々の表情が、とくに心に残りました。収容所での生活がどれだけ苦しかったのか、それを物語っていました。シベリアに連れて行かれた人が着ていた服も、さわってみました。この支給された服じゃ、とても寒そうだなと思いました。「寒さで指を失った。」と聞いたときは、驚きました。

千代分村の歴史について、千代分村のスライドを使って学びました。コウリャンという、硬い、鳥の餌みたいな食べ物を満蒙開拓団員が食べさせられたと聞いて、とても驚きました。生き残った男の人達が、シベリアに連れて行かれ、ソ連のドイツとの戦争での復旧作業をさせられていたという話を聞き、どれだけ過酷なのかを想像しました。

ワークショップでは、１０歳で帰国した少年の気持ちを考えてみました。野中さんは、無事帰ってこられたけれど、満州に渡って行った人は、帰ってきてからも苦しい毎日を送ったと言うことでした。自分に置き換えて考えてみて、生きて帰って来ても、「野中さんは、大変だっただろうな。」と、考えました。これからはもう満洲みたいなことは起こすことのないようにしてほしいです。

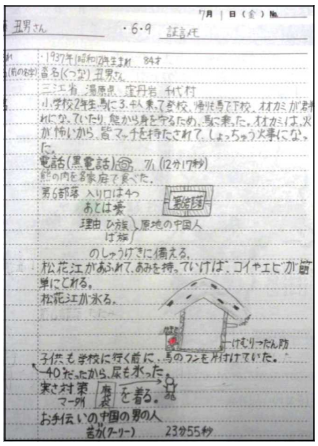
あの後、歩いて山本慈昭おしょうさんの長岳寺に行ってみました。鐘に、「望郷の鐘」の文字が刻まれていました。「想い出は、かくも悲しきものか…」という詩がほられていました。長岳寺には、また、行ってみたいです。鐘は、家族で来たときに、ついてみたいです。

この平和学習を通じて、感じたことがありました。僕は、これから満蒙開拓に行った色んな人の苦しみや悲しみを忘れないようにし、他の人にも伝えていきたいです。また、家族を誘って満蒙開拓平和学習記念館へ行きたいです。

「山河に学ぶ」
飯田市立千代小学校６年

除と死没者芳名碑の銅板プレート磨きに行ってきた。分担してはたきと箒で，クモの巣や落ち葉を取り除いた。使い捨て手袋を両手にはめ，近藤丑男さんから預かった金属磨き液を新品の雑巾に付けて，丁寧に磨き込んだ。途中で摘んだ野の花も花立てに供えた。「随分字が見やすくなったね」と，効果を実感していた。

担任が録音した近藤さんの証言も，聴き始めた。地図で証言に出てくる地名を一つ一つ確認して，入植地や避難経路の位置関係も調べてみた。証言の内容で聞き取れなかった言葉，例えばクーリー（苦力）の解説…開拓団民の家に下働きとして雇われた，開拓前の元々の土地の所有者である中国の男性…というように，担任の解説もまじえルーズリーフにメモ（㊨）をした。



元開拓団の証言を学校図書館にある郷土誌「千代風土記」で見つけ，手記や記憶を元に描かれた地図を読み解いて，近藤さんの記憶と照合する作業もしてみた。

■6　4か月間も精神を費やした満州開拓慰霊芳名碑のデータベース作り

慰霊碑清掃を６年生でやってみるにも草刈りの必要があり，７月17日に担任が草刈機を持って行った。終わって，近所の男性に声を掛けられた。事情を説明したところ「慰霊碑の名前をデータベースにしてみたらどうですか。記録が残るし，子どもたちのICT学習にもなるし」と提案された。６年生に話したら，やる気満々だった。子どもたちも，満州開拓慰霊碑の右隣の銅板プレートに刻まれた戦没者が気になっていた。そこで拓本採りを計画。写真撮影を試みたが，映像としては不鮮明になる。夏休み前後３回に渡って，満州開拓慰霊碑死没者プレートの拓本を採った（㊨**写真**）。

子どもたちが採ってきた拓本は７段333人分。８月28日，Googleスプレッドシート（Excelに類似）を使って，お名前の入力を始めた。改良した6B鉛筆での拓本は，鮮明に読めた。「先生，この字なんて字？」「𠀋はなんて読むの？」など，間違いの無いように注意して打ち込む。普段タイピングソフトをやっているため，入力はスムーズ。30分間，沈黙して作業した。終わってから，「あー，疲れたぁ」。それもそのはず。赤ちゃんからお年寄りまで，満州のハルピンで77年前に亡くなった方々の魂を刻むのである。ものすごい精神力が必要だった。とてつもない使命感みたいな雰囲気を醸し出す４人の姿は，大変立派に思えた。入力作業は週２時間ずつ，運動会や修学旅行という大きな行事と並行して10月末まで続いた。

卒業文集編集作業も始まった11月，慰霊碑の芳名碑の名前を入力したものと，県や市などが整理した満蒙開拓団名簿との照合作業を開始。まず，「長野県満州開拓史～名簿編～（㊧）」の千代分村や旧千代村の部分を飯田市立図書館で担任がコピーしてもらってきた。長野県の渡満農民３万３千人から，500人余の千代の人たちを探すのも大変だった。名簿から個人を探し出し，表に生年月日・生死の別・最終確認地・死因などを入力。「プレートの字と名簿の字が違う」「プレートは亡くなった人のはずなのに，『帰還』とか『引揚げ』とある。どういうことなの？」と，戦没者一人ひとりの

行方をたどる困難さを実感した。精神的にも負担の大きい作業だった。333人中260人まで照合と入力が完了。

12月10・11日と担任が満蒙開拓平和記念館に赴き，実践報告と，残り73人の調査方法の相談をした。長野県立歴史館がまとめた県関係団民33,000人のExcelデータのコピーをいただいた。残り73人のお一人お一人検索をした結果，大八浪（ターパーロウ）泰阜村など他開拓団に記載されていた方が４人見つかった。260人は，正確に特定できていた。子どもたちの努力には正直驚く。

Ⅲ　具体的な指導とポイント

■1　満蒙開拓史と慰霊碑データベースを伝える活動への展開

12月23日は２学期終業式。Googleスライドを活用し，全校に向けてプレゼンテーションをした（㊨**写真**）。歴史を学んでいない５年生以下にとって満蒙開拓史はちんぷんかんぷんだということはよく分かっていて，地図や写真と平易な言い回しで下級生に少しでも関心を持ってほしいと願いスライド作成（㊦）し発表をした。子どもたちの願いは，保護者や地域の方々，他校や他地域の人々にも知ってほしいのである。しかし，子どもたちや担任では限界がある。

12月25日（日）。阿智村の満蒙開拓平和記念館では大掃除。寺沢秀文館長にお会いして，２学期までの千代小６年生の満州開拓千代分村の学びについて報告。出前授業で来校いただけることとなった。26日には，窪丹岡千代分村開拓体験者で，1946年小学校６年生時に旧千代村に帰国した増田信義さんに連絡をとった。担任の義母とは旧知とのことで，拙宅に招いてお話を伺った。６年生が採った銅板プレートの拓本，それを記録したデータベース，増田さんが編集長を務め満蒙開拓の体験談をまとめた「平和への願い」，今までの学習の経過をまとめた資料を用意。90歳になられる増田さんは，資料をご覧になり開口一番，「これは素晴らしい。あの慰霊碑の名前をこんな風に資料にまとめてくれて，とてもありがたいです。私ができることがあったら，何でも協力しましょう。」と，母校でもある千代小学校に来校して下さるともおっしゃった。

■2　飯田市歴史研究所による満州開拓慰霊碑データベースの歴史資料正式認定

12月27日，飯田市千代自治振興センターに赴いて，千代満州開拓慰霊碑の芳名碑をデーターベース化した資料の保管を依頼した。30分かけて説明したが断られてしまった。担当者が変わってしまうので，責任を持って保管できないというのが理由だ。飯田市歴史研究所に保存を依頼したらどうだろうか…との提案され，歴史研究所を訪ねた。授業参観の打ち合わせをした。

１月12日（木），千代満州開拓慰霊碑建立委員会編「平和への願い」巻末の名簿入力の様子を，２月22日（水）には完成したデータベースの贈呈と研究発表会と，２回参観に来て下さった（㊨**写真**）。長野県の満蒙開拓について本を書かれている専門研究員の方から，千代分村の避難の判断が適切だったことが紹介された。「みなさんが満州で亡くなった地域の人のひとりひとりをきちんとテータベース化して記録するとは，とても価値があることで，素晴らしい取り組みです」「飯田市の正式な資料として認定し，契約書を取り交わしたい」との話だった。「満州で何が起きたのか？」，「満州を学んで私たちは何をしたか？」，「データーベースに取り組んで分かったこと（㊧）」と，プレゼンテー

ションをリレーをした。「プレゼンのレベルが高い」「ここまで研究をした人は，大人でもいません」「一人ひとりをデーターベース化したからこそ，素晴らしい発表ができます」と，専門家の方々から賞賛され，「今年９月に開かれる学会に，招待したい」との言葉もいただき，６年生は照れていた。

■3　満蒙記念館長の力を借り新聞やTVによる県内・全国への発信で念願達成

１月27日（金），満蒙開拓平和記念館の寺沢秀文館長による出前授業が遂に実現。館長は，信毎・中日・読売・南信州４紙，NHK・SBC・TSB・飯田ケーブルの４局に取材投げ込みをして下さっていた。取材陣に囲まれても，平然と授業を進める。記者会見にも臨んだ。冒頭「飯田市千代廣籏八幡神社境内・満州開拓慰霊碑に刻印された犠牲者333人のデータベース」を，寺沢館長に手渡し。寺沢館長から「全国的にも大変貴重な取り組み。忘れてはならない戦争の悲劇を伝える慰霊碑を守る先駆けとなります」と，喜ばれた。県内の56基はじめ，全国の満州開拓碑を研究している中で，戦後78年たった今，どこでも慰霊碑の維持・管理が困難な状況で重大な局面であると説明。また，千代から満州へ渡った人数は少なくとも508人。うち243人は現地で落命，特に12歳以下の生存率1/3という事実についても拝聴。「自分たちが取り組んできた清掃活動やデータ作りが重要な事だと解った」「寺沢さんの話を聴いて，改めて悲惨な歴史が分かりびっくりした」「竜東中学では同じような歴史がある地区から集まる。同級生にも，伝えていきたい」と，発表し合った。

授業の模様は，各TV局が27日６時15分からのローカルニュースで放映（㊨**写真**）。翌28日朝刊では，信毎と中日が紙面の大半を割いて紹介（㊧）。南信州は29日に１面トップ。読売は，２月２日に特集。

２月８日は小学校最後の参観日。保護者発表会をして，家庭でも話題にし関心を持ってもらうことに。保護者や先生方からの感想。「こんな発表をするとは聞いていなかったので，素晴らしい発表に正直驚きました」「満州に大勢の人が渡ったことは知っていましたが，詳しく分かりました。戦闘で亡くなったのではなく，終戦後に多くが満州で病気や栄養失調で亡くなったと知りショックを受けました」「千代の歴史を調べた事で，この先も忘れないと思います。感動しました」「学習での苦労，何を学んだのか，この学びをどう伝えたいかが伝わりました」と，評価をいただいた。

その後NHKは，特集番組を放映。卒業式２日前の３月14日には，全国ニュースでも取り上げた。県内各地の方，大学の元教授，宮崎県や埼玉県の満州引揚げ体験者，教職員や愛知県の元教員など多くの方から連絡や問い合わせをいただいた。反響の大きさに，子どもたちはびっくり。願っていた「多くの人たちに，満州開拓慰霊碑の存在とデータベース化のことを知ってもらい，満蒙開拓の悲惨な歴史に関心を持ってもらう」が，実現できた。

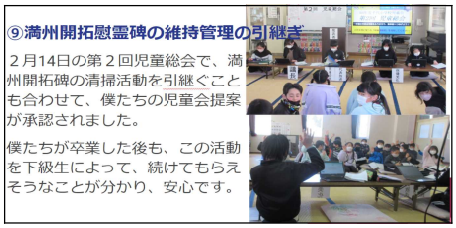
ウクライナへ侵攻から丸１年の２月24日（金），寺沢秀文館長による出前授業Ⅱが実現（㊨**写真**）。プレゼンテーションをし，寺沢館長が疑問に答えつつ新たな情報を報告。疑問点がスッキリし「私たちが５月からやってきたことは，千代だけでなく全国にとっても大切なことだとわかった」「私たちが卒業した後も，千代小で引き継いでほしい」「平和について頑張っている寺沢館長さんの願いが伝わってきた。これからも，平和であってほしい」と，想いや願いを語り合った。

Ⅳ　研究･実践の成果

■1　もう一人の体験者との対話と児童総会・５年生との研究交歓会で後輩への引継ぎ

２月14日（火）午後の第２回児童総会。児童会長は用意していた配布用とプレゼンテーション提示用の議

案書を説明した。10月と１月の２回，代表・放送委員会が慰霊碑清掃を行っていた。清掃活動が児童会活動として正式に，児童会員総意として承認されたことを喜んでいた。㊨は彼が，５年生への引き継ぎ用にまとめた資料である。４年生からの「満蒙開拓について，もっと教えてほしい」の意見も重視していた。



児童会の引継ぎ日の２月28日（火）には，窪丹崗満蒙開拓千代分村経験者で飯田市内在住者２人のうちのもう１人，増田信義さんが来校して下さった。増田さんは，千代分村第１次隊で渡満し1946年９月に小学校６年生で引き揚げた千代小学校の大先輩。1976年10月11日の満州開拓慰霊碑建立委員39人の１人であり，「平和への願い（1977年刊）」の編集責任者でもある。データーベースを，増田さんに手渡した。増田さんは大変感激され，「満州で無念にも落命した千代の人たちが，みなさんのおかげで喜んでくれると思います。千代小の子どもたちが慰霊碑を守ってくれること，千代にとってどれだけありがたいことか。心から感謝します」と，建立委員会名で５万円の維持管理費の贈呈を受けた（**㊧新聞記事**）。子どもたちからの報告後，一問一答形式で増田さんから体験談をお伺いした。ハルビンの収容所での過酷な毎日，引揚げ後の苦労，慰霊碑建立秘話などをお聴きし，子どもたちは興味深い話にのめり込んでいった。千代の歴史の次の語り部になろうとしている子どもたちの姿に，増田さんは期待感を持たれたと思う。

３月14日，「５・６年生学習発表交歓会」を開いた（**㊨新聞記事**）。６年生には，歴史学習を来年学ぶ５年生に満蒙開拓の悲しい歴史と千代地区の関わりを知り，その戦跡・満州開拓慰霊碑のデータベースとそこから得た知見を引き継ぎたいという熱い想いがあった。報道４社のカメラが向けられる前，引継ぎデータを新児童会長に手渡し，活動の総括と作成したデータ分析を説明。新児童会長から「私たちが引継いでいきたい」との，嬉しいコメントをもらった。

■2　6年生の満州開拓慰霊碑との関わりが後輩とPTA・地域を動かした

３月16日（木）卒業式。卒業生保護者代表による謝辞「地域の満蒙開拓の史実と満州開拓慰霊碑を学び，碑に刻まれた戦没者の名前をデータベース化した千代小学校の６年生は，今，日本で一番有名な卒業生になりました」の言葉が，千代小学校教職員の心に残っている。４人が巣立った千代小学校では，慰霊碑維持・清掃活動は，児童会活動として定着している。「満州開拓慰霊碑保存委員会」から託されたご厚志で，先生方が気軽に満州開拓慰霊碑の整備ができるようにと電動草刈機を購入。PTA正副会長の提唱で，子どもたちが慰霊碑管理活動を容易にできるようにと，保護者と地域の人たちが草刈りや生垣の剪定をしている。

Ⅴ　今後の課題，その他

■1　地域の歴史遺産を調べ，戦争と平和の歴史を追究して得た主権者としての成長

「ふるさと千代にはいろいろあるけれど，満蒙開拓の悲惨な歴史も，千代の財産であるんだ」「自分たちの地域の特性の一つだ」「小学校最後の一年間で，地域に眠っていた大切な歴史を掘り起こし目覚めさせ，世の中に出すことに成功したんだ」「これからの自分には，この学びを広め，伝える役割があるんだ」と，自己のアイデンティティへの誇りを自覚して，小学校を巣立って行った。中学進学後も，これらの学びを意識しているという。そして，ボチボチと満蒙開拓での学びについて，級友と話題にし始めているとのことである。